

2024年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立浅井中小学校	学校No.	31
-------	------------	-------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

SDGsの目標3〔保健〕の分野に、「あらゆる年齢のすべての人々の 健康的な生活を確保し、福祉を促進する」とある。本校では、社会福祉への関心と理解を深め、様々な体験活動や交流を通して『福祉の心』を育てることをねらいとしている。本年度は、SDGsの内容とも関連させて、「総合的な学習の時間」や学校行事において身近な福祉に目を向けた教育活動を展開した。

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

（1）N－1 グランプリ（総合的な学習等）の開催

学習成果の発表の場と位置付けた「N－1 グランプリ」を4年連続で開催した。「コミュニケーション能力」や「情報発信能力」を高めることをねらいとし、年齢や障害の有無を問わずみんなが楽しめるこの企画は、今年度も保護者や地域の方に好評であった。特別支援学級に在籍する児童全員が交流学級の児童と同じ舞台に立ち、のびのびと学習の成果を披露し、会場から温かい拍手が沸き起こった。

（2）福祉実践教室（総合的な学習）

5年生が車いす体験と発達障害理解の講座を受講した。実際に車いすで生活をしている方の話を聞いたり車いすの体験をしたりすることで、障害のある方の苦勞を知り自分たちにできることを考える機会となった。発達障害理解では、目に見えない違いや心の悩みを誰もがもっていることを知った。人権や個の特性を受け入れ「みんなちがってみんないい」という思いをもつことが大切だと気づいた。

（3）募金活動

児童会と代表委員が中心となって、積極的な募金活動を展開した。2学期には「赤い羽根募金」を3日間実施し、多くの善意が集まった。

（4）「赤い羽根」啓発作品への参加

毎年、夏休みに実施している「『赤い羽根』作品コンクール」に多数の児童が参加し、作品を出品した。

（5）人権週間の取り組み

各学級で担任による読み聞かせを実施した。各学級で人権スローガンを考え、人権に対する意識の高揚を目指したり、いじめをなくすための標語づくりを全学級で取り組んだりした。さらに、人権擁護委員さんに来校いただき、人権教室（1・2年生）を開催した。開催の前にはイメージソング「世界をしあわせに」を昼の給食時に放送して全校の意識を高めた。

（6）地域とのつながり

普段から登下校でお世話になっている地域の見守り隊の方や民生委員さんを招いて、4月には「あいさつの会」、2月には「感謝の会」を実施した。あいさつの会では地域の方の話を聞いたり、交通安全に関するクイズを一緒にしたりして楽しい時間を過ごした。感謝の会では長年お世話になった見守り隊の方から卒業する6年生に対して温かいメッセージをいただくなど、地域の方とのつながりを通して地域に対する愛情を育んでいる。

3. 福祉教育の成果と今後の課題

福祉実践教室では、実際に車いすで生活している方の話を聞いたり誰にでも目に見える違いや目に見えない違いがあることを知ったりすることができた。実践後の感想からも「みんなちがってみんないい」とそれぞれに個性があることを知り、それを受け入れることが大切だと気付いた児童が多かったと感じている。また、本来、助け合いの心や実践は、学校や家庭、地域の中で育てていくものだと考えている。実践教室があるから事前に学習するのではなく、福祉実践教室がいつも行っていることや疑問に感じている問題を解決する場として、意義のある時間となるよう普段から子どもの心を耕していきたい。今後も温かい交流を通して心豊かな児童を育成することができるよう実践を進めていきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載

2024年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立千秋東小学校	学校No.	32
-------	------------	-------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校は、「知・徳・体の調和のとれた、未来を拓くたくましい児童の育成を図る」を教育目標に、「自ら学び自ら考える子」「自らを律し、他を思いやる子」「健康で、意欲的に活動する子」をめざす児童像として教育活動を実践している。日常の学校生活や道徳、総合的な学習の時間等を通して、福祉の心と実践力を持った児童の育成を目指し、福祉推進実践校として以下のように取り組んだ。

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

(1) 児童会活動を中心とした活動

異学年交流として、年度初めに顔合わせのペア活動を行った。お互いに手紙を書いて交換し、上の学年が計画した遊びで交流した。また、縦割り班によるなかよし清掃、ペア学年によるわくわくフェスティバル等、上級生が下級生をリードして活動を行う交流を実践した。

(2) 福祉実践教室

5年生児童が、5月14日（火）に社会福祉協議会の方々を講師に迎えて車いす体験とガイドヘルプ体験を行った。実際に体験することで、その大変さを理解することができ、手助けをするには何ができるか考えるようになった。また、この活動をきっかけに、子どもたちは福祉に対する意識を高め、自分が興味を持ったことを調べて発表した。

(3) 地域の方々とのふれあい活動

地域ボランティアや老人会の協力で、伝統文化等を体験することができた。

1年生…昔遊び 地域の方に学校に来ていただき、こま回しやお手玉などを教えていただいた。

2年生…町探検 地域の農家の方にお話を伺いに行った。調べたことを班ごとにファイリングした。また、学校に隣接する老人施設を2回にわたって訪問し、施設の方の仕事を見学したり、お年寄りに学習したことを発表したりする交流を行った。

3年生…きなこ作り 地域の方に学校に来ていただき、大豆からきなこに変わる過程を、実際に活動しながら教えていただいた。

4年生…グラウンドゴルフ 老人会の方に学校に来ていただき、ゲームを楽しんだ。

5年生…稲刈り 農家の方に教えていただきながら、田植えや稲刈りを体験させていただいた。

ポッチャ体験 人権教育の一環として、実際に競技されている選手を本校に招いて、ポッチャ体験を行った。障害の有無にかかわらず、一緒に競技を楽しむことで、障害者への意識が変化し、ユニバーサルデザインの大切さを考えることができた。

6年生…しめ飾り作り 老人会の方に来ていただき、作り方を教えていただいた。

どの学年も、活動の後にはお礼の手紙を書き、地域の方々とのつながりを深めることができた。

(4) 道徳の学習を通して

道徳では、自他の生命を尊重し、他者や社会との関わりの中で、多様な価値を認めながら自分を見つめ直し、自分だからこそできる役割があることに気づかせ、勇気をもって行動することができる児童の育成を目指して指導した。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和6年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立起小学校	学校NO.	33
1 社会福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制） (1) 目標 高齢者や障害のある人たちにとって、住み良い社会とはどんな社会なのかを体験活動を通して考え、自分たちができることを調査・追究することができる。 (2) 計画 【1学期】福祉実践教室、福祉について調べ学習を行い、福祉についてまとめる。 【2学期】5年生の国語の時間の意見文を書く活動、赤い羽根共同募金への参加 (3) 推進体制 福祉教育部会を組織し、各学年と調整して計画を具体的に推進する。 5年生が中心になって活動を計画して推進する。			
2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録） (1) 福祉実践教室 5月29日 事前に各学級で「思いだしてごらん」を活用して、福祉について学習を行った。福祉実践教室には、5年生74名が参加した。はじめに「福祉」について全体講義を聞き、その後、「車いす」、「点字」、「ガイドヘルプ」の3つのコースに分かれて各体験活動を行った。 車いす体験では、車いすの操作の仕方を聞き、実際に段差を超えたり、狭い通路を通ったりすることの難しさや大変さを学ぶことができた。点字体験では、点字のきまりを学んだ後、実際に点字を読んだり、書いたりして、目の不自由な人にとっての点字の便利さとありがたさについて学んだ。ガイドヘルプ体験では、2人1組となって、アイマスクをした状態での階段の上り下りや、障害物のある道の通行を体験した。目の不自由な人の「見えない」という不安な気持ちを知るとともに、目が不自由な人を誘導する難しさを知ることができた。どの児童も、初めての体験で、障害を持った方々の苦労や生活における工夫を知ることができた。実際にやってみて、生活していく上での大変さを理解すると共に、誰もが過ごしやすい社会をつくっていくためにどうすればよいのかを考えるきっかけを得ることができた。 (2) 5年生の国語の時間 福祉実践教室での体験活動後、図書館にある本や資料、インターネットを活用して調べ学習を行った。その後、国語の「みんなが使いやすいデザイン」の単元で、誰もが過ごしやすいためにはどうすれば良いかについて自分の考えをまとめる意見文を書いた。福祉実践教室での体験やこれまでの経験談を踏まえ、これからの社会のあり方について考えを持つことができた。 (3) 街頭での赤い羽根共同募金活動 赤い羽根共同募金活動では、地域の商業施設に出掛け、校区の住民に募金活動への呼び掛けを行うなどした。			
3 福祉教育の成果と今後の課題 5年生では、「福祉」をテーマに国語の時間に学習を進め、多くの児童に「誰もが過ごしやすい社会にするにはどうすればよいのか」を考える意識が高まった。実際に体験することで、自分たちは、身体の不自由な人達とどのように接したらよいのか、日本の社会全体がどうあるべきかについて考えることができた。また、地域の住民やお年寄りとの関わりを通して、思いやりの心を育てることができた。一方で、身近な人達との接し方にまで迫ることができなかった。今後も、児童自らが福祉について学び、より深く理解していけるように見つめる心と実践力を付けていきたい。			



2024年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立三条小学校	学校No.	34
-------	-----------	-------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

①総合的な学習の時間における、福祉に関する学習

【目的】

福祉に関する調べ学習を通して、社会福祉への関心を高めるとともに、「豊かな人間性」や「共に生きる力」を育むこと （活動対象）4年生

② 尾西公園美化活動

【目的】

地域の公園を、異学年と地域のお年寄りを交えたグループで清掃することを通して、年齢を超えた地域の絆づくりを行う。 （活動対象）2・4年生（春） 3・5年生（秋）

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

①総合的な学習の時間における、福祉に関する学習

(1)インターネットを活用した調べ学習

図書室で調べた中で、興味を持ったことについて、インターネットを使ってさらに詳しく調べた。

(2)福祉実践教室

グループごとに手話、点字、車いすの各体験を通し、見えない、聞こえないことの困難さを知り、様々な特性を持った人々と共に生きる力を育んだ。

(3)スライドを利用した発表

学習した内容を学年廊下に掲示して、他のグループの児童が調べ学んだ内容を共有した。また、個人でスライドを作成し、発表会を行った。

②尾西公園美化活動 5月2・4年生 11月3・5年生

8:30～10:20 尾西公園にて草むしり、落ち葉集めを行う。

3. 福祉教育の成果と今後の課題

【成果】

福祉実践教室では、手話、車椅子、点字のグループに分かれて体験をした。子どもたちは講師の先生の話真剣に聴いたり、初めて使う道具や手話に戸惑いながらも集中して活動することができた。

尾西公園美化活動では、異学年集団で地域のお年寄りと共に、公園の美化活動を行うことを通して、地域の方や異学年との結びつきが生まれている。また、清掃活動に対する意欲も高められている。

【課題】

今年度も体験活動を通して学ぶ機会を設けることができた。今後も豊かな人間性や共に生きる力を育てるには、さらにさまざまな体験活動を取り入れていくとよいと感じた。



2024年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立小信中島小学校	学校No.	35
1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制） （1）目標 福祉の町として、住みよいまちづくりをするために自分たちにできることは何かを考えさせ、福祉に関する実践力を高める。 （2）計画 福祉について知る・福祉実践教室の開催・一人暮らし老人の方へ年賀状・総合学習での追究 2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録） （1）福祉について知る 福祉の新聞記事を読んだり、インターネットを使ったりして、地域の福祉の実態や取り組みについて調べるなどした。また、調べ学習に生かせるようにした。その後、インターネットや本を使った情報収集、同じテーマをもった子たちとの情報交流などを行い、様々な表現手段を用いて用紙にまとめた。 （2）福祉実践教室の開催 9月 社会福祉協議会、SSWの方に協力してもらい、体験の前に動機づけ、福祉とは何かの授業と、事後に振り返りの授業をしていただいた。 体験は、車いす、点字、ガイドヘルプ、高齢者疑似体験の中から2つ選んで行った。 （3）一人暮らしの老人の方へ年賀状を送る 12月 一人暮らしの老人の方々に孫になったつもりで、楽しいイラストや温かな文面で年賀状を書いた。 （4）総合的な学習の時間での追究 福祉の新聞記事、インターネットを使った調べ学習で、疑問に思ったことやもっと調べたいことなどから、テーマを決めた。その後、インターネットや本を使った情報収集、同じテーマをもった子たちとの情報交流などを行い、様々な表現手段を用いてスライドにまとめ、発表を行った。 3. 福祉教育の成果と今後の課題 調べ学習等を通して、福祉に対しての理解が深まった。そして、障害のある人の気持ちに気づき、共に生きるために自分ができることを考えようとする児童や地域の福祉施設について関心をもつ児童が増えてきた。 福祉実践教室を通して、障害のある人の気持ちをより深く感じる事ができた。今後も「福祉」に対する理解を深める指導を継続していくとともに、生活の中で障害者の方に出会ったとき、学習したことが生かされるようにしていきたい。			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

2024 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立朝日東小学校	学校 No.	3 6
-------	------------	--------	-----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

【学校教育目標】	【福祉教育目標】	【重点事業】
「もっといい自分」を目指す 心豊かでたくましい朝東の子 ○ いのちを大切に、心と体を鍛え、たくましく生きる子 ○ きまりを守り 人と協力できる子 ○ やさしく 思いやりのある子	児童の社会福祉への理解を一層深め、体験活動を積み重ねることができるよう行事等を計画し実践する。	○ あいさつ運動 ○ 社会福祉体験活動 ○ 地域の講師を招いた体験活動（華道） ○ 募金活動 ○ 見守り隊感謝の会

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

昨年度、新型コロナウイルス感染症の感染症法の分類が5類へと引き下げられ、様々な行事活動がコロナ前へと戻りつつある。以前から行っていた地域交流活動や大勢の人が集まる活動においても、全てではないが従来の内容へと戻していった。その中で、本年度も外部講師を招き、様々な取り組みを行うことができた。

【9月18日 福祉実践教室 5年生】

5年児童を対象に視覚障害者ガイドヘルプ体験、車いす体験、手話体験、点字体験の4つの内容で実施した。講師の方々から、日常生活の暮らし方や生活している中で困ることなどのお話をいただいた。福祉実践教室を通して、障害のある方の気持ちを考えること、そしてその気持ちを考えた上で自分たちには何ができるのか、どのように行動したら良いのかということを考えていった。実際に体験することで、児童はより学びを深めることができた。



ガイドヘルプ体験



車いす体験



手話体験



点字体験

【1月30日 華道体験 6年生】

6年児童を対象に、地域の講師の方を招いて華道体験を実施した。毎年、日本の伝統文化を体験する目的で行っている。講師の方から講話を聞いた後、華道体験に取り組んだ。児童は、講師の方から丁寧に指導してもらい、各々の発想で花を生けていった。貴重な日本の伝統的な文化を体験することができた。



華道体験

3. 福祉教育の成果と今後の課題

今年度も様々な取り組みを行うことができた。福祉実践教室においては、本や資料等の情報だけでなく、実際に体験することで培えた知識や感情も多くあると感じた。このような地域の方との交流や、他文化を学ぶ活動を通して、豊かな心を育成することができたと思う。

来年度も、福祉実践教室や地域の方との関わりを通して、児童に相手を思いやる心を育成したり、地域社会の一員としての自覚を高めさせたりしていきたい。